



豊かな自然いつまでも

千葉県若葉区 ひこ
平田 邦彦さん(68歳)
〔境町出身〕

ふる里会発足当時から参加しています。山田を離れて40年以上が経ちますが、普段会えない同郷の方々と会うことができるこの会を毎回楽しみにしています。山田には毎年帰っていますが、われわれはいつでも帰れる自然豊かな古里があり、つくづく幸せだと感じています。とりわけ山田の海が大好きです。山田は変わりつつありますが、素晴らしい自然はいつまでも残してほしいですね。

同級生との再会楽しみ

東京都板橋区 りょうこ
貫洞 亮子さん(62歳)
〔八幡町出身〕



高校卒業と同時に上京し、都会での生活も40年以上になります。ふる里会には3、4年前から同級生たちと参加しています。今年は4人だけの参加でしたが、同窓会気分に参加できるこの会は、わたしたちにとって恒例行事の一つ。毎年、ふる里会の物産販売を担当している木村商店の木村トシさんも同級生であり、年に一度の再会と都会に届く古里の味を毎回楽しみにしています。



抽選会で当せんし、町の特産品を受け取る参加者



物産販売も参加者の楽しみの一つ



ふる里山田同郷の会 160人が集い親ぼく深める



「かっぱぼれ踊り」も披露されました



ふる里会の佐々木道義会長から顕彰する会会長の沼崎喜一町長に寄付金が贈られました

古里への便り⑦



東京都調布市 しみず
小岩 清水さん(65歳)
〔後楽町出身〕

平成19年の「ふる里山田同郷の会」に参加し、およそ160名の皆さんの心からなる笑顔に出会いました。この複雑な時代にあって、もしも普通の場合で160名もの人々が、2時間も笑顔でいるとしたら、それは不思議さを超えて不気味なものでしょうけれども、このふる里会では、実に和やかな時間が最後まで続いたのです。東京という殺気立った巨大都市で、こんなにも楽しい場が醸し出される場はとても珍しいことであり、そこに流れていた時間とはそれぞれが社会の中で飲み込んできた多様な苦しさを忘れられる大切な「時」の中にいるから、と感じるのは私だけだったのでしょうか。このような楽しい時間の持続、それは生まれ育った山田町の風土、人情という源流の清澄な流れに出会い、安心してその流れに浸り、心を洗うことができ、それが瑞々しい生命力を再生させ、これから生きるための希望や意欲をもたらすからに違いないと信じています。人生を健気に努力され、ここに集う人々の「姿の尊さ」を古里で同じように生きておられる皆さんにも、強く伝えて共有したいと思うのでありました。

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が7月8日、中野区のサンプラザを会場に開かれました。今年で22回目となる同会には160人が出席。町からも沼崎喜一町長をはじめ職員6人、町議会から昆暉雄議長ら5人、山田町商工会から阿部幸栄会長が参加しました。総会終了後には、「懇親交流の集い」が開かれ、参加者は年に一度の同郷人同士の交流を楽しみました。

総会では、佐々木道義会長が「はからずも昨日は7月7日の七夕であり、年に一度会うという意味で、ふる里会も22回目の良き日を迎えました。ふる里会の名誉顧問であった鈴木善幸元内閣総理大臣の銅像と顕彰碑の建立などに対する募金活動では、多くの会員の皆さんのご理解をいただき感謝致します。今日は会員同士親ぼくを深め、時間の

許す限り楽しんでいってください」とあいさつしました。続いて、沼崎喜一町長が町の近況を報告。「昨シーズンのサケ漁とアワビ漁は大変よい結果をもたらしましたが、主力であるカキ漁はノロウイルスの風評被害で例年の6割減と大打撃を受けました。このような大変厳しい状況ではありますが、われわれは一生懸命頑張っていますので、変わらぬご支援をお願いします。また、鈴木善幸元内閣総理大臣を顕彰する会に対しまして、皆さんから心温まる善意を頂いています。あらためて町民を代表して感謝申し上げます」と述べました。その後、平成18年度の事業報告や本年度の事業計画が審議され、原案どおり承認。引き続きふる里会から顕彰する会に寄付金の贈呈が行われ、佐々木会長から顕彰する会会長の沼崎町長に目録が手渡されました。

総会終了後の「懇親交流の集い」は昆暉雄町議会議長の乾杯の音頭で幕が開け、参加した皆さんは古里を懐かしみながら思い出話に花を咲かせていました。アトラクションでは、ブラックアト田さんによるマジックショーやふる里会幹事のサークル仲間による「かっぱぼれ踊り」も披露され、場内は大いに盛り上がり、たほか、会場では物産販売や特産品が当たる抽選会も行われ、参加した皆さんは古里の品々に満足の様子。最後に地区ごとに記念撮影を行い、来年の再会を約束しつつ会場を後にしました。